

## 農水省と建設トップランナー倶楽部がシンポ

農林水産省と建設トップランナー倶楽部(代表幹事・米田雅子慶應義塾大学特任教授)の共催による「建設業と農林水産業の連携シンポジウム」が6日、千代田区の農林水産省講堂で開かれた。サブタイトルを「建設業・林建協働の十年の歩み」と題したこのシンポジウムでは、農林水産業に進出した建設業の歩みを振り返るとともに、これからの課題を浮き彫りにし、地域における建設業と農林水産業の連携による地方創生の可能性について議論した。これには農林水産省、国土交通省などの幹部ら約350人が集い、建設業から農林水産業の各分野に進出した同倶楽部の代表20者の事例発表に耳を傾けた。

主催者を代表して、同シンポジウムの発案者でもある農林水産省の皆川芳嗣事務次官は「建設業と農林水産業が連携してこそ、内発的な自立発展の可能性が生まれてくる」とシンポジウム開催を意義付けた後、「厳しい現実には前向きにとらえ、それぞれの地域で新



主催者あいさつする農林水産省の皆川事務次官

# 建設業と農林水産業の連携で地方創生

田代表幹事は、「建設業を例を挙げ、農林水産・経済の中核にしながら農林水産業に進出してきた地域のトップランナーの姿を通じて、

しい連携を構築する建設業と農林水産業の連携による地方創生の可能性を議論していききた。地方創生に向けて、変化を感じ力強く歩んでいこうと述べた。「森林再生・地域創生・森共催者である同倶楽部の米

「木質再生」と題して「地域の森」を再生し、農林水産省の「林建協働」ではたかやま林建の長瀬雅彦氏(長瀬建設社長)、下呂林建共同企業体の森本繁司氏(馬瀬建設社長)らが岐阜県内における林建協働の取り組みを紹介した。

「森林再生・地域創生・森林資源活用」では、菅野組(北海道)の菅野浩太郎取締役が、オホーツク振興に向け農業へ参入してきた経過を話した後、「自然の掟に逆らわず、強い苗木を次の世代へと受け継いでいくことが責務だ」と決意を語った。(事例発表者20者とタイトル、アドバイザーは3面参照)



地域創生にアイデア続々!

農林水産省など省庁関係者ら約350人が参加した(左に記事)